



合唱コンクールに向けて練習頑張っています！

とても暑い日が続きましたが、秋分の日を迎えたころから、ようやく秋の気配が感じられるようになりました。今年は、熱中症対策により、この時期の体育大会と11月に行っていた合唱コンクールを入れ替えて実施します。2学期から、音楽の時間で本格的にクラスごとの練習に励んできていますが、今週から、お昼休みや放課後の時間を使っての練習も始まりました。皆さんのがんばっている姿を見て、本番を楽しみにしています。クラスの仲間と気持ちを一つに揃えて、聴く人の心に響く歌を届けてください。

<合唱コンクール発表曲>

【課題曲】 大切なもの(1年)

空は今(2年)

きみにとどけよう(3年)



【自由曲】

1-A 手のひらをかざして

1-B そのままの君で

2-A あさがお

2-B 絆

3-A 夢のかなう場所へ

3-B 希望という名の花を

3-C 変わらないもの

全校集会で後期の生徒会役員を募集しました！

9月29日(月)の全校集会で、後期の生徒会役員の募集が行われました。が中心となって、Uチューブ動画によく登場する、ゆっくりしていったの霊夢と魔理沙による募集動画が流され、全員の心をつかむプレゼンテーションが行われました。また、生徒会主催の「制服キャンペーン」が大成したことで、生徒たちから要望のあった体操服登校を10月10日(金)まで実施することについても発表されました。他には、厚生委員会と生活委員会よりパワーポイントと自作動画によるプレゼンテーションが行われ、全生徒から大きな拍手がおきました。



チャレンジテストに挑戦(3年生)！

9月2日(火)に3年生がチャレンジテストに挑戦しました。このチャレンジテストは、高校受験に必要な内申書の持ち点に関わる重要なテストです。3年生の皆さんは、5時間に及ぶテストを最後まで集中して取り組むことができました。納得いく結果が得られることを祈っています。



関西国際センター研修生と交流(2年生)！

9月30日(火)に、田尻町にある関西国際センターの研修生と田尻中の2年生が英語の時間に交流しました。昨年度に引き続き、ニュージーランドから来られている6名の研修生(日本語指導や英語の指導をしている先生たち)と2年生が、お互いの国や暮らしについて、タブレットで作ったパワーポイントを使って交流しました。田尻中の生徒たちは、日本のアニメや食べ物などについてクイズ形式で紹介し、研修生の方々は、ニュージーランドの果物や動物、スポーツ(ラグビー)などについて紹介してくれました。お互いが、日本語と英語を使いながらの活気あふれる交流ができました。



自分らしさを大切にするために(1年生)！

「中学生はみんな、まさに「自分らしさ」を探す時期です！」これは、命の教育の一環として行った1年生総合の授業で、担当した山下先生からのメッセージです。自分らしく生きることが、幸せに生きることの土台になることを伝えてくれる感動的な授業でした。授業の中では、LGBTQ+など性的マイノリティーの方たちのことにも触れながら、自分らしさを大切にする心のあり様について、改めて考える機会になりました。



田尻中で学校公開授業を実施しました！

9月9日(火)に、田尻町立中学校の全クラスで公開授業を実施しました。当日は、田尻町立小学校の教員の他、他市からも見学に来ていただきました。今回の目的は、「更なる子ども理解や系統的な指導を行うための意識改革」と、「中学校が頑張っているところを小学校の教員に見ていただいて、一貫した教育について教職員の意識を高める」ことでした。



泉英研英語暗唱大会に さんが出場！

9月11日(木)泉の森ホールで開催された泉英研英語暗唱大会に、田尻中の代表として3年生の さんが出場しました。

「This is good(これでいい)」というタイトルのお話(英文)を暗唱して、大勢の聴衆と審査員の前で発表しました。夏休みから何度も学校に来て、覚えるところから努力を重ね、ジェスチャーや視線の向け方などの練習にも取り組みました。当日は、堂々とした発表で、その頑張りに賞状が贈られ、9月の全校集会で表彰しました。大変立派でした！



宮城県大崎市立田尻中学校と交流スタート！

「大阪と宮城 田尻中学校がつながる日！」というキャッチコピーで、9月30日(火)16時から、田尻町教育センター2階研修室で、宮城県大崎市立田尻中学校と大阪府泉南郡田尻町立中学校の生徒会がWEBで交流しました。1回目は、互いの市町と学校について紹介し合いました。今後も生徒会が主体となって学校間の交流を進めて行く予定です。この日は、教育委員会から を初め、 も見学に来ていただきました。ありがとうございました。

(校長 池本勝利)



今後の予定

10/3(金)	【3年生】英語検定 受検
10/8(水)	【3年生】赤ちゃんふれあい交流
10/9(木)	【二次対象者】モアレ検査
10/17(金)	11:30～作品展示 13:20～合唱コンクール PTA 研修会(10:00 町教育センター)
10/20(月)	生徒会役員選挙 個人相談 week(～24(金))
10/22(水)	5限後 下校
10/25(土)	田尻小学校 運動会
10/27(月)	【3年生】第2回 学力診断テスト
10/28(火)	授業参観(2限目9:45～10:35) 給食後 下校(教職員研究会のため)
10/29(水)	【3年生】赤ちゃんふれあい交流
10/30(木)	【3年生】赤ちゃんふれあい交流
10/31(金)	【2年生】校外学習(コリアタウン) 【3年生】保護者対象進路説明会(15時ふれ愛センター)

戦時の分断を目の当たりにして

先日、熊取町で人権に関する講演を聞きました。講師はウクラ

イナと日本を中心に活躍する音楽指揮者の^{たかやみつぶ}高谷光信さん。

トランペット奏者として過ごした学生時代、外国の学生との交流を機にウクライナの音楽の魅力にとりつかれ、指揮者としての人生をスタート。武者修行としてウクライナの音楽学校に飛び込みで入門し、それ以来「スラブ音楽」の魅力を世界中に発信してきました。今回の来日もこれが目的です。

スラブ地方は、ウクライナやロシアにまたがる地域で、国境を越えて存在する文化圏です。チャイコフスキーやドヴォルザーク、グラズノフなど、有名な作曲家を多く輩出しています。

講演では、ご自身が指揮された映像を交え、いくつかの代表曲をご紹介します。さながら、演奏会の様相を呈していました。夏のひと時、空調の整ったホールでクラシック音楽に聞き入ることができて、非常に幸せな時間でした。

また、この講演会のもう一つの目的は、ロシアのウクライナ侵攻による音楽界への影響を私たちに知ってもらうことでした。

戦時にありながら、音楽を奏で続けることで、「少しでも市民の方に日常の安心を与える」こと。そして、今は「楽器を武器に変えて」平和への強い思いを発信しつづけること。

しかし、戦争は確実に人々に分断をもたらしています。

お話の中で印象的だったことをいくつかご紹介します。
ひとつは、戦争が始まったとたんに、「敵国」にあたる作曲家の曲を演奏できなくなったこと。政府からの統制を受け、演奏家の中にも「敵国の音楽を弾きたくない」という声も出てくるとのことです。

また、ウクライナ生まれでロシアに帰化した方を心配して連絡した際、しばらく経って帰ってきた返事の短い文章や、そっけないものに違和感を持ったとのこと。実は、メールの内容は常に監視されており、心から言葉を表現すると送信できないばかりか、身の危険まで生じる可能性があったと、後にわかったそうです。

さらに、日本に残るウクライナ音楽家の中には、自分の仲間が母国のために兵士として戦っていても、自分が参加できていないことに不甲斐なさ・もどかしさを感じているそうです。立場を同じくする仲間と支えあいながら、次のように話しています。

「自分たちは歌うことで戦っている。しかし、怒りを音楽で表すのではなく、怒りを抑えることを心がけている。怒りの表現をすれば、味方だけでなく敵をもあおり、力を与えることになる。だから決してロシアを恨んで演奏することもしない」

講演の最後に、「つる」という歌が紹介されました。この曲は、ロシアで作詞され、ウクライナで作曲されています。1965年に、広島平和記念資料館を訪れ、原爆の被害に衝撃を受けたことや、被爆後幼くして亡くなった佐々木貞子さんのことなどを歌に込め、その後、旧ソ連で大ヒットしています。日本語にも訳され、今も世界のあらゆる場所で歌われています。歌を聴きながら、戦争の悲しさや命を失った人への思いなど、あらためて様々な感情がこみ上げてきました。日本での惨事を改めて受け止め、加害・被

害の別なく命の大切さに思いをはせる心は世界共通のものだと思います。

平和が保障されてこそ、自分の好きなことに打ち込み、自由に生活ができます。国境をはじめとするあらゆる枠を超えて、同じ人間として感動を分かち合ったり、目標に向かって力を出し合ったり、困ったときには支えあったりすることができるのです。

ひとたび平和が壊されると、生きるための家やライフラインが破壊されます。最近まで手を取りあっていた人々が、銃を向けあって対立してしまうのです。武器や資金提供などの経済的な戦争支援や輸出・輸入の制限による対立はもちろん、戦場ではなくても音楽に代表される芸術・文化までもが分断される。・・・それは仲間との関係や心までもが引き裂かれるということ。

戦争は急には始まらないものだと思います。日常の国どうし・民族どうしの関係に少しずつ歪みが生じるとそれが溝となり、修復を試みる者と報復を浴びせようとする者とのバランスが崩れ、いつしか武力による解決に踏み切ろうとする・・・。

私たちは、周囲の出来事に対する心の動きによって行動を決め、ともすれば一番選びたくなかったはずの選択を決断してしまうことともあります。為政者だけでなく、主権者一人一人の感じ方や行動の仕方がバイアス（偏り）となって拡大した時、それは止めることのできない動きになってしまうこともあります。

・・・講演の第二部では、ピアノ奏者・釜崎さんとテノール歌手・中島さんによる演奏を数曲おこなっていただきました。館内に響き渡る透き通った声と、流れるようなピアノの旋律をじっくり堪能しました。

演奏後、割れんばかりの大きなあたたかい拍手がいつまでも会場を包んでいる光景に、音楽による平和の力をとても強く感じることができました。高谷さん、釜崎さん、そして中島さん、大変貴重な機会を本当にありがとうございました。

(教頭 横井武志)